

ウ) 調査方法

a. 水素イオン濃度指数 (pH)

スミス・マッキンタイヤ型採泥器を用いて底泥を採取した。採取試料高を計測し、6cm 以上のものを分析試料とした。

pH は採泥後、直ぐにハンディセンサーを用いて測定した。

b. 酸化還元電位 (ORP)

スミス・マッキンタイヤ型採泥器を用いて底泥を採取した。採取試料高を計測し、6cm 以上のものを分析試料とした。

ORP は採泥後、直ぐにハンディセンサーを用いて測定した。

c. 全有機炭素

スミス・マッキンタイヤ型採泥器を用いて底泥を採取した。採取試料高を計測し、6cm 以上のものを分析試料とした。分析試料を分析室に持ち帰り、第 3.1-5 表に示す方法で測定した。

d. 無機炭素

スミス・マッキンタイヤ型採泥器を用いて底泥を採取した。採取試料高を計測し、6cm 以上のものを分析試料とした。分析試料を分析室に持ち帰り、第 3.1-5 表に示す方法で測定した。

e. 硫化物

スミス・マッキンタイヤ型採泥器を用いて底泥を採取した。採取試料高を計測し、6cm 以上のものを分析試料とした。分析試料を分析室に持ち帰り、第 3.1-5 表に示す方法で測定した。

f. 粒度組成

スミス・マッキンタイヤ型採泥器を用いて底泥を採取した。採取試料高を計測し、6cm 以上のものを分析試料とした。分析試料を分析室に持ち帰り、第 3.1-5 表に示す方法で測定した。

第 3.1-5 表 分析方法 (底質)

項目	分析法	参考文献
水素イオン濃度 (pH)	ガラス電極センサーによる計測 (現地測定)	—
酸化還元電位 (ORP)	ガラス電極センサーによる計測 (現地測定)	—
全有機炭素	塩酸による前処理後、 全有機炭素を CHN 元素分析で測定	底質調査方法 (H24.8) II 4.10
無機炭素	全炭素量 (TC) — 全有機炭素量 (TOC)	底質調査方法 (H24.8) II 4.10
硫化物	亜鉛アンミン溶液で現地固定後、よう素滴定法	底質調査方法 (H24.8) II 4.6
粒度組成	ふるい法および沈降法	JIS A 1204

③ 結果

7) 水素イオン濃度指数 (pH)

夏季は 6.8～8.0, 秋季は 7.4～8.1, 冬季は 6.7～7.9, 春季は 7.1～7.9 の範囲にあった。なお, 冬季の St.03 で 5.8 と低い pH が測定されたが, 現場計測で 3 回測定した値 (5.3, 5.9, 6.2) に変動が大きく, 現況データとしては不採用として取り扱った。

4) 酸化還元電位 (ORP)

夏季は -106～220mV, 秋季は -93～216 mV, 冬季は -27～263 mV, 春季は -64～227 mV の範囲にあった。岸側の測点では好気的環境を示す場合が多かった。一方, 沖合の測点は変動が大きかった。

ウ) 全有機炭素

夏季は 1.1～10.3mg/g, 秋季は 0.6～10.4mg/g, 冬季は 1.1～8.7mg/g, 春季は 1.2～8.2mg/g の範囲にあった。岸側の測点で低く, 沖合の測点で高い傾向がみられた。

1) 無機炭素

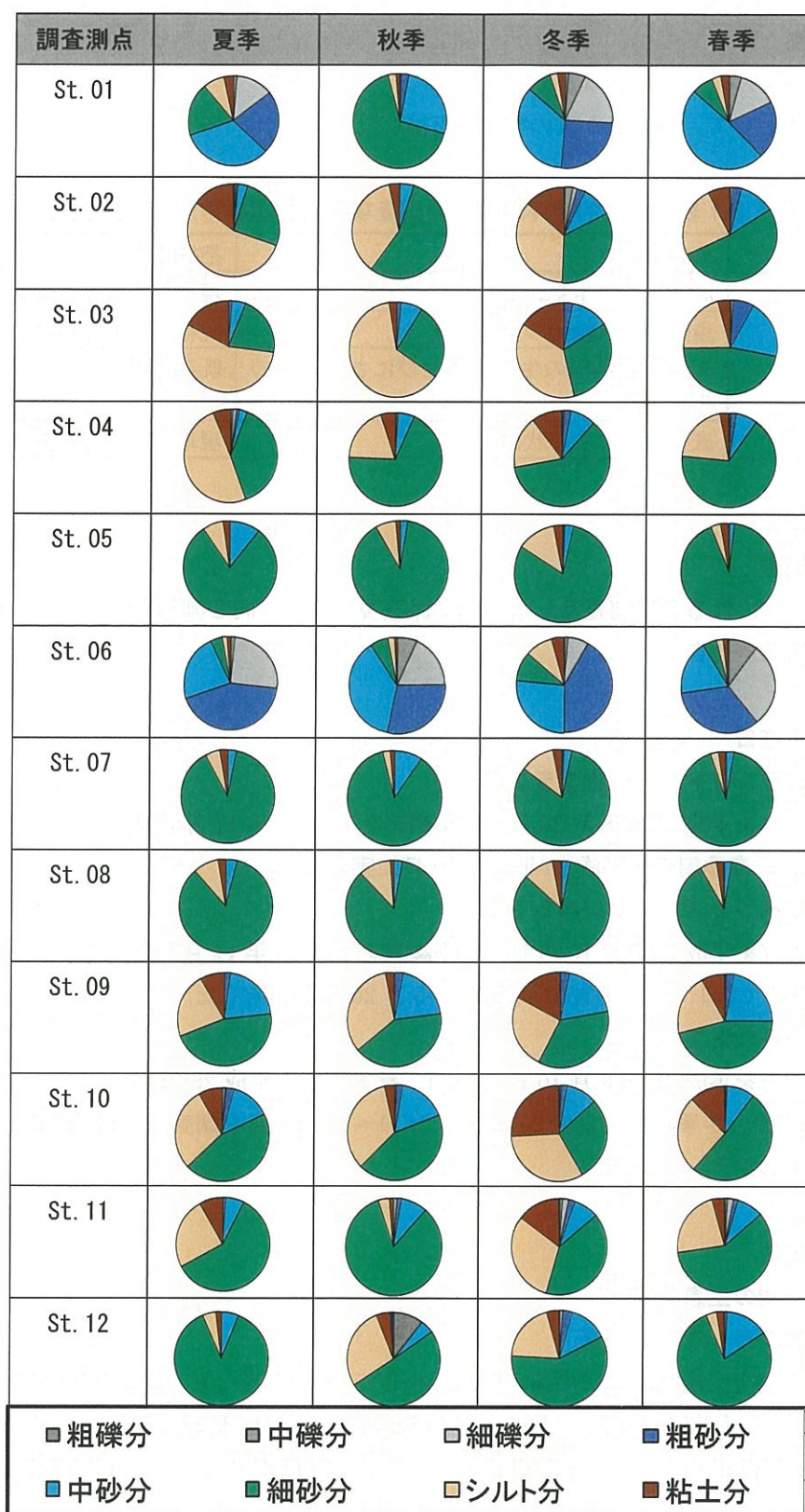
夏季は報告下限値 (0.1mg/g) 未満～0.6mg/g, 秋季は報告下限値 (0.1mg/g) 未満～0.4mg/g, 冬季は報告下限値 (0.1mg/g) 未満～0.4mg/g, 春季は報告下限値 (0.1mg/g) 未満～0.5mg/g の範囲にあった。調査測点別にみると, 岸側の調査測点で低く, 沖合の調査測点で高い傾向がみられた。

オ) 硫化物

夏季は報告下限値 (0.1mg/g) 未満～0.4mg/g, 秋季は報告下限値 (0.1mg/g) 未満～0.2mg/g, 冬季は報告下限値 (0.1mg/g) 未満～0.2mg/g, 春季は報告下限値 (0.1mg/g) 未満～0.4mg/g の範囲にあった。調査測点別にみると, 岸側の調査測点はいずれも報告下限値 (0.1mg/g) 未満であった。

カ) 粒度組成

粒度組成の結果は, 第 3.1-17 図に示すとおりである。岸側の調査測点で細砂分を中心とした組成を示した。また, St.02, St.03, St.04 を含む沖合の測点では, 岸側の測点に比べてシルト分が多い組成を示した。



3.2 海洋生物

(1) 項目

海洋生物として、第 3.2-1 表の項目を把握した。

第 3.2-1 表 潜在的海洋環境影響調査項目と把握の方法（海洋生物）

環境要素等の区分	調査項目	把握の方法
海洋生物	浮遊生物の生息状況	現地調査により把握した。
	魚類等遊泳動物の生息状況	既存資料の整理により把握した。
	海草及び藻類の生育状況並びにさんご類の生息状況	既存資料の整理により把握した。
	底生生物の生息状況	現地調査により把握した。

(2) 調査方法

① 調査測点

海洋生物に係る現地調査は、水環境に係る現地調査と同じ測点で実施した（第 3.1-1 図および第 3.1-2 表）。

② 調査実施日

7) 植物プランクトン，動物プランクトン

夏季調査を平成 25 年 8 月 26 日，秋季調査を平成 25 年 11 月 6 日，冬季調査を平成 26 年 2 月 20 日，春季調査を平成 26 年 5 月 19 日に実施した。

4) メイオベントス，マクロベントス

夏季調査を平成 25 年 8 月 28 日，秋季調査を平成 25 年 11 月 7 日，冬季調査を平成 26 年 2 月 20 日，21 日，春季調査を平成 26 年 5 月 20 日に実施した。

ウ) メガロベントス

夏季調査を平成 25 年 8 月 10 日～14 日，秋季調査を平成 25 年 11 月 9 日，12 日，13 日，22 日，23 日，冬季調査を平成 26 年 2 月 24 日～27 日，春季調査を平成 26 年 5 月 11 日～14 日に実施した。

③ 調査方法

7) 浮遊生物の生息状況

a. 植物プランクトン調査

水質調査実施時に水質の採水層に合わせて、1 地点当たり 4 層で採取を行った。採取層は、1 層（海面下 0.5m）、2 層（海面下 5m）、3 層（海底上 5m）、4 層（海底上 2m）を基本とし、温度躍層が認められた場合には、2 層と 3 層の採取水深を調整して躍層の上下で採取した。

採取はバンドーン採水器を使用して、1 層当たり 2L を試料とした。採取した試料はホルマリン固定して持ち帰り、沈殿量の計測、種の同定および細胞数の計数を行い、1L 当たりの細胞数に換算した。

b. 動物プランクトン調査

北原式定量ネットを使用して、調査地点の海底上 1m から海面までの鉛直引きを行って試料とした。曳網時には、網口部に濾水計を取り付け、濾水量を計測した。採取した試料はホルマリン固定して持ち帰り、沈殿量を計測後、種の同定と個体数の計数を行い、1m³ 当たりの個体数に換算した。

1) 魚類等遊泳動物の生息状況

魚類等遊泳動物の生息状況について、『北海道水産現勢』（北海道水産林務部，2010～2014 年），『苫小牧東部地域に係る環境影響評価書』（北海道，1996 年），『苫東厚真発電所第 4 号機設置計画に係る環境影響評価書』（北海道電力株式会社，1998 年），国立科学博物館ウェブサイト，『漁業生物図鑑新北のさかなたち』（北海道新聞社，2004 年），『川づくりのための魚類ガイド』（一般財団法人北海道建設技術センター，2004 年）により把握した。

2) 海草及び藻類の生育状況並びにさんご類の生息状況

海草および藻類の生育状況について、『第 4 回自然環境保全基礎調査』（環境庁，1994 年），『苫小牧東部地域に係る環境影響評価書』（北海道，1996 年）^[3]『平成 23 年度施行胆振海岸環境調査業務報告書』（公益社団法人北海道栽培漁業振興公社，2012 年），『平成 24 年度施行胆振海岸生物環境調査業務報告書』（公益社団法人北海道栽培漁業振興公社，2013 年）により把握した。また，さんご類の生息状況について、『第 4 回自然環境保全基礎調査』（環境庁，1994 年），日本サンゴ礁学会ウェブサイトにより把握した。

1) 底生生物の生息状況

a. メイオベントス調査

スミス・マッキンタイヤ型採泥器を使用して 1 測点につき 1 回採泥を行った。この採泥器内の底泥から，内径 50mm のコアサンプラーを用いて深さ 5cm までの柱状採取を行った。採取した試料は，ホルマリン固定して持ち帰り，1mm 目合いの篩を通過し，かつ 40μm 目合いの篩上に残った生物について，可能な限り種まで同定し，個体数の計数を行い，0.01m² 当たりの個体数に換算した。なお，原生動物門の有孔虫綱（Foraminifera）と袋形動物門の線虫綱（Nematoda）は，分類体系が定まっていないため，種の同定は行っていない。

b. マクロベントス調査

スミス・マッキンタイヤ型採泥器を使用して 1 測点につき 3 回採泥を行い，混合して 1 試料とした。採取した試料は船上で篩い分けし，1mm 目合いの篩上に残ったものをホルマリン固定して持ち帰り，種の同定，個体数の計数および湿重量の計量を行い，1m² 当たりの値に換算した。

c. メガロベントス調査

i) 水中カメラによるメガロベントス観察調査（生息状況）方法

遠隔操作無人探査機（Remotely operated vehicle; ROV）による海底近傍の水中カメラ撮影を実施した。撮影された映像から，海底面の状況やメガロベントスの分布状

況を明らかにした。また、水深 20m 以浅の調査点において、ダイバーによる海底撮影および観察を実施した。

ii) ドレッジによるメガロベントス採取調査（種の同定）方法

簡易ドレッジを用いて、メガロベントスを採取した。採取した試料は、船上でバットに取り出して写真撮影した。種を同定できる個体については、種ごとに計数・計量して、再放流した。船上で種の同定が困難なメガロベントスは、ホルマリン固定して持ち帰り、種の同定、計数等を行い、ROV による画像データの検証に用いた。

(3) 結果

① 浮遊生物の生息状況

7) 植物プランクトン調査

沈殿量および総出現細胞数は、夏季と春季に多くなる傾向が確認された。植物プランクトン相は、珪藻綱を主体とした 182 種で構成されていた。地点ごとの植物プランクトン相は 106～126 種で構成されていたが、四季の調査で共通して出現した種数は平均で 9.7 種とやや少なく、主要な種組成は季節により変動していることが示唆された。特に、St. 10 は他の地点と比較して同一種の出現率が 3.7% と少なく、季節変動が最も大きい地点であった。

総細胞数に対し 5% 以上出現した優占種は、四季を通じて 13 種であった。これら優占種は第 3.2-2 表に示すとおり、*Skeletonema costatum* が夏季～秋季、*Chaetoceros sociale* が秋季～冬季、*Chaetoceros radicans* が冬季～春季、*Chaetoceros compressum* が春季～夏季に多く出現し、季節により優占種が交代する過程が確認された。また、夏季調査では優占種の出現状況が温度躍層の上下で大きく異なっていたが、冬季調査では鉛直混合が生じているため、優占種は上下層間で近似する結果となった。また、春季調査では春季ブルームで卓越して増殖した 2 種の細胞数が全体の 90% を占めていた。

第 3.2-2 表 植物プランクトン優占種一覧

調査季	種名	出現率 (%)
夏季	<i>Thalassiosira</i> sp.	6.7
	<i>Skeletonema costatum</i>	10.5
	<i>Leptocylindrus mediterraneus</i>	5.9
	<i>Chaetoceros compressum</i>	15.9
	<i>Chaetoceros affine</i>	10.7
	<i>Chaetoceros curvisetum</i>	6.4
秋季	<i>Thalassiosira mala</i>	11.2
	<i>Skeletonema costatum</i>	9.0
	<i>Chaetoceros debile</i>	9.5
	<i>Chaetoceros sociale</i>	46.3
冬季	<i>Thalassiosira pacifica</i>	14.1
	<i>Chaetoceros radicans</i>	6.4
	<i>Chaetoceros sociale</i>	12.6
	<i>Asterionella kariana</i>	6.0
	<i>Thalassionema nitzschioides</i>	34.5
春季	<i>Chaetoceros compressum</i>	66.6
	<i>Chaetoceros radicans</i>	26.2

イ) 動物プランクトン調査

沈殿量および総出現個体数は、夏季と春季に多くなることが確認された。動物プランクトン相は、節足動物門を主体とした 189 種で構成されていた。地点ごとの動物プランクトン相は 80～114 種で構成され、四季調査で共通して出現した種数は平均で 4.3 種と少なく、主要な種組成は季節により変動していることが示唆された。特に、St. 06 と St. 07 は四季共通の出現種数が 2 種以下と少なく、さらに St. 06 では環形動物、St. 07 では節足動物の種数が他の地点と比較して少なかった。

総個体数に対し 5%以上出現した優占種は、四季で 11 種であった。このうち、*Oithona similis* と Copepoda nauplii は四季を通じて優占していた。夏季調査では、二枚貝類の発生初期の幼生である Pelecypoda が優占しており、ウバガイ（ホッキガイ）を代表とした二枚貝類の資源が豊富な苫小牧海域を反映した結果と考えられた。

以上のとおり、動物プランクトンは四季を通じて出現する種数が少なく、出現状況は季節により変動することが確認された。動物プランクトンは浮遊生活を送る生物群であることから、海流の勢力消長により出現状況に年変動が生じる可能性も考えられる。

第 3.2-3 表 動物プランクトン優占種一覧

調査季	種名	出現率 (%)
夏季	Pelecypoda	11.7
	<i>Podon polyphemoides</i>	6.7
	<i>Paracalanus parvus</i> s. l.	33.1
	<i>Oithona similis</i>	12.3
	Copepoda nauplii	7.8
秋季	<i>Paracalanus parvus</i> s. l.	17.7
	<i>Clausocalanus pergens</i>	5.2
	<i>Acartia omorii</i>	5.7
	<i>Oithona similis</i>	19.6
	<i>Oncaea waldemari</i>	5.1
	Copepoda nauplii	34.3
冬季	Copepoda nauplii	42.2
	<i>Pseudocalanus newmani</i>	39.8
	<i>Oithona similis</i>	7.8
春季	Copepoda nauplii	52.9
	<i>Acartia longiremis</i>	19.6
	<i>Triconia borealis</i>	7.0
	<i>Oithona similis</i>	5.8

② 魚類等遊泳動物の生息状況

7) 苫小牧市および厚真町地先海域に生息する魚類等

苫小牧市および厚真町地先海域で漁獲あるいは確認の記録がある魚類等を、第 3.2-4 表に示す。ただし、「漁業生物図鑑 新北のさかなたち」(北海道新聞社, 2003 年)および「川づくりのための魚類ガイド」((財)北海道建設技術センター, 2004 年)については、市町単位での整理がなされていないため、苫小牧市および厚真町地先海域を含む北海道太平洋側あるいは道央太平洋側に生息する魚類を記載した。また、表中の魚類等の区分は『平成 20～24 年北海道水産現勢』(北海道水産林務部, 2010～2014 年)を参考とし、種名の並びは、区分ごとに五十音順で整理した。

苫小牧市および厚真町地先海域に生息する魚類等として、魚類 553 種、水産動物 9 種、海棲哺乳類 6 種が挙げられる。

第 3.2-4(1) 表 苫小牧市および厚真町地先海域に生息する魚類等

番号	区分	資料名および対象地域 種名	① ^[1] 北海道 水産現勢	② ^[2] 環境影響 評価書 (確定)	③ ^[3] 設置計画 に係る 評価書	④ ^[4] 海棲哺乳 類情報 データベース	⑤ ^[5] 新漁業生物 図鑑 のさかな たち	⑥ ^[6] 魚川づくり ガイド のための
			苫小牧市, 厚真町				北海道 太平洋側	道央 太平洋側
1	魚類	<i>Lestidiops pacificum</i>					○	
2		アイカジカ		○			○	
3		アイナメ	○	○	○		○	
4		アイナメ属			○			
5		アオザメ					○	
6		アオミシマ					○	
7		アオヤガラ					○	
8		アカアジ					○	
9		アカエイ		○			○	
10		アカカマス					○	
11		アカガヤ					○	
12		アカガレイ	○	○	○		○	
13		アカギンザメ					○	
14		アカクジラウオダマシ					○	
15		アカゲング					○	
16		アカシタビラメ					○	
17		アカチョッキクジラウオ					○	
18		アカドンコ					○	
19		アカマンボウ					○	
20		アカムツ					○	
21		アカヤガラ					○	
22		アキギンボ		○			○	
23		アゴハゼ					○	
24		アサバガレイ		○	○		○	
25		アサヒアナハゼ					○	
26		アジシロハゼ		○				○
27		アツモリウオ					○	
28		アバチャン					○	
29		アブオコゼ					○	
30		アブラガレイ					○	
31		アブラツノザメ		○			○	
32		アブラボウズ					○	
33		アマクサウオ					○	
34		アミメハギ					○	
35		アメマス					○	○
36		アヤギンボ					○	
37		アヤトビウオ					○	
38		アユ						○
39		アラ					○	
40		アラスカキチジ					○	

[1] 『北海道水産現勢』（北海道水産林務部，2010～2014 年）

[2] 『苫小牧東部地域に係る環境影響評価書』（北海道，1996 年）

[3] 『苫東厚真発電所第 4 号機設置計画に係る環境影響評価書』（北海道電力株式会社，1998 年）

[4] 『海棲哺乳類情報データベース』（国立科学博物館ウェブサイト：<http://svrsh1.kahaku.go.jp/marmam/>，2014/10/17 アクセス）

[5] 『漁業生物図鑑新北のさかなたち』（北海道新聞社，2004 年）

[6] 『川づくりのための魚類ガイド』（一般財団法人北海道建設技術センター，2004 年）

第 3.2-4(2) 表 苫小牧市および厚真町地先海域に生息する魚類等

番号	区分	資料名および対象地域 種名	① ^[1] 北海道水産現勢	② ^[2] (環境影響評価書) 苫小牧東部地域に係る	③ ^[3] 設置計画に係る 苫東厚真発電所 4 号機	④ ^[4] 海棲哺乳類情報データベース	⑤ ^[5] 新漁業の生物図鑑 北海のさかなたち	⑥ ^[6] 魚川づくりのための ガイド
			苫小牧市, 厚真町				北海道太平洋側	道央太平洋側
41	魚類	アラスカビクニン					○	
42		アラスカメヌケ					○	
43		アラハダカ					○	
44		アラメヌケ					○	
45		アラメヘラザメ					○	
46		アリューシャンカスベ					○	
47		アンコウ					○	
48		イカナゴ		○	○		○	
49		イサゴビクニン					○	
50		イシガキダイ					○	
51		イシガキフグ					○	
52		イシガレイ		○			○	
53		イシダイ					○	
54		イソギンボ					○	
55		イソギンボ科		○				
56		イソバテング		○			○	
57		イトヒキアジ					○	
58		イトヒキカジカ					○	
59		イトヒキダラ					○	
60		イトマキエイ					○	
61		イトヨ		○	○			
62		イトヨ (降海型)					○	○
63		イヌゴチ					○	
64		イバラヒゲ					○	
65		イボダイ					○	
66		イボダンゴ					○	
67		イラコアナゴ					○	
68		イレズミコンニャクアジ					○	
69		ウキクサウオ					○	
70		ウキゴリ		○	○			○
71		ウグイ		○	○		○	○
72		ウケグチイワシ					○	
73		ウサギアイナメ					○	
74		ウスオニハダカ					○	
75		ウスバハギ					○	
76		ウスメバル					○	
77		ウナギ					○	○
78		ウナギガジ		○	○		○	
79		ウナギギンボ					○	
80		ウバザメ					○	

[1] 『北海道水産現勢』(北海道水産林務部, 2010~2014 年)

[2] 『苫小牧東部地域に係る環境影響評価書』(北海道, 1996 年)

[3] 『苫東厚真発電所第 4 号機設置計画に係る環境影響評価書』(北海道電力株式会社, 1998 年)

[4] 『海棲哺乳類情報データベース』(国立科学博物館ウェブサイト: <http://svrsh1.kahaku.go.jp/marmam/>, 2014/10/17 アクセス)

[5] 『漁業生物図鑑新北海のさかなたち』(北海道新聞社, 2004 年)

[6] 『川づくりのための魚類ガイド』(一般財団法人北海道建設技術センター, 2004 年)

第 3. 2-4 (3) 表 苫小牧市および厚真町地先海域に生息する魚類等

番号	区分	資料名および対象地域 種名	① ^[1] 北海道水産現勢	② ^[2] 苫小牧東部地域に係る環境影響評価書(確定)	③ ^[3] 苫東厚真発電所 4 号機設置計画に係る環境影響評価書	④ ^[4] 海棲哺乳類情報データベース	⑤ ^[5] 新漁業生物図鑑のさかなたち	⑥ ^[6] 川づくりのための魚類ガイド
			苫小牧市, 厚真町				北海道太平洋側	道央太平洋側
81	魚類	ウマヅラハギ			○		○	
82		ウミタナゴ					○	
83		ウラナイカジカ					○	
84		ウルメイワシ					○	
85		ウロコメガレイ					○	
86		エゾアイナメ		○	○		○	
87		エゾイソアイナメ					○	
88		エゾクサウオ		○	○		○	
89		エゾハナカジカ						○
90		エゾメバル					○	
91		エドアブラザメ					○	
92		オアカムロ					○	
93		オオカミウオ					○	
94		オオクチイシナギ					○	
95		オオクチイワシ					○	
96		オオサガ	○				○	
97		オオメハダカ					○	
98		オオメマトウダイ					○	
99		オキアジ					○	
100		オキエソ					○	
101		オキカズナギ					○	
102		オキカズナギ属		○				
103		オキタナゴ					○	
104		オキヒメカジカ					○	
105		オキフリソデウオ					○	
106		オクカジカ		○	○		○	
107		オグロコンニャクウオ					○	
108		オコゼカジカ					○	
109		オシマオキカジカ					○	
110		オットセイカジカ					○	
111		オナガカスベ					○	
112		オニカジカ		○	○		○	
113		オニキンメ					○	
114		オニシヤチウオ		○			○	
115		オニハダカ					○	
116		オニヒゲ					○	
117		オヒョウ					○	
118		オホーツクカジカ					○	
119		オンデンザメ					○	
120		カイワリ					○	

[1] 『北海道水産現勢』(北海道水産林務部, 2010~2014 年)

[2] 『苫小牧東部地域に係る環境影響評価書』(北海道, 1996 年)

[3] 『苫東厚真発電所第 4 号機設置計画に係る環境影響評価書』(北海道電力株式会社, 1998 年)

[4] 『海棲哺乳類情報データベース』(国立科学博物館ウェブサイト: <http://svrsh1.kahaku.go.jp/marmam/>, 2014/10/17 アクセス)

[5] 『漁業生物図鑑新北のさかなたち』(北海道新聞社, 2004 年)

[6] 『川づくりのための魚類ガイド』(一般財団法人北海道建設技術センター, 2004 年)

第 3.2-4(4) 表 苫小牧市および厚真町地先海域に生息する魚類等

番号	区分	資料名および対象地域 種名	① ^[1] 北海道水産現勢	② ^[2] 苫小牧東部地域に係る 環境影響評価書 (確定)	③ ^[3] 苫東厚真発電所 4 号機 設置計画に係る 環境影響評価書	④ ^[4] 海棲哺乳類情報 データベース	⑤ ^[5] 漁業生物図鑑 新北海のさかなたち	⑥ ^[6] 川づくりのための 魚類ガイド
			苫小牧市, 厚真町				北海道太平洋側	道央太平洋側
121	魚類	カガミダイ					○	
122		カサゴ					○	
123		ガジ		○			○	
124		カジカ科		○	○			
125		カズナギ					○	
126		カスミザメ					○	
127		カタクチイワシ		○	○		○	
128		カツオ					○	
129		カナガシラ					○	
130		カナダダラ					○	
131		カナド					○	
132		カブトウオ					○	
133		カムチャッカゲンゲ					○	
134		カムトサチウオ			○		○	
135		カラス					○	
136		カラスエイ					○	
137		カラスガレイ					○	
138		カラスザメ					○	
139		カラフトカジカ		○			○	
140		カラフトシシャモ					○	
141		カラフトソコダラ					○	
142		カラフトマス					○	○
143		カレイ科		○	○			
144		カワハギ					○	
145		カワヤツメ		○			○	○
146		ガンギエイ					○	
147		ガンコ					○	
148		カンテンウオ					○	
149		カンテンゲンゲ					○	
150		カンテントカゲギス					○	
151		カンテンビクニン					○	
152		カンパチ					○	
153		カンムリフサカジカ					○	
154		キアッコウ					○	
155		ギス					○	
156		ギスカジカ		○	○		○	
157		ギスカジカ属		○	○			
158		キタイカナゴ					○	
159		キタタウエガジ					○	
160		キタノホッケ					○	

[1] 『北海道水産現勢』(北海道水産林務部, 2010~2014 年)

[2] 『苫小牧東部地域に係る環境影響評価書』(北海道, 1996 年)

[3] 『苫東厚真発電所第 4 号機設置計画に係る環境影響評価書』(北海道電力株式会社, 1998 年)

[4] 『海棲哺乳類情報データベース』(国立科学博物館ウェブサイト: <http://svrsh1.kahaku.go.jp/marmam/>, 2014/10/17 アクセス)

[5] 『漁業生物図鑑新北海のさかなたち』(北海道新聞社, 2004 年)

[6] 『川づくりのための魚類ガイド』(一般財団法人北海道建設技術センター, 2004 年)

第 3. 2-4 (5) 表 苫小牧市および厚真町地先海域に生息する魚類等

番号	区分	資料名および対象地域 種名	① ^[1] 北海道水産現勢	② ^[2] 苫小牧東部地域に係る環境影響評価書(確定)	③ ^[3] 苫東厚真発電所4号機設置計画に係る環境影響評価書	④ ^[4] 海棲哺乳類情報データベース	⑤ ^[5] 新漁業生物図鑑のさかなたち	⑥ ^[6] 魚川づくりのためのガイド
			苫小牧市, 厚真町				北海道太平洋側	道央太平洋側
161	魚類	キタフサギンボ					○	
162		キタマクラ					○	
163		キタムシャギンボ					○	
164		キチジ	○				○	
165		キツネメバル					○	
166		キヌカジカ					○	
167		キハダ					○	
168		ギマ					○	
169		キマダラヤセカジカ					○	
170		キュウリウオ		○	○		○	○
171		キュウリウオ科		○				
172		ギンアナゴ					○	
173		キンカジカ					○	
174		ギンザケ					○	
175		ギンザメ					○	
176		ギンダラ					○	
177		キントキダイ					○	
178		ギンボ		○			○	
179		キンメダイ					○	
180		クサウオ			○		○	
181		クサウオ属		○				
182		クサウオ科			○			
183		クサビウロコエソ					○	
184		クサフグ					○	
185		クジカスベ					○	
186		クシスミクイウオ					○	
187		クジメ			○		○	
188		クジャクカジカ					○	
189		クズアナゴ					○	
190		クダヤガラ					○	
191		クマガイウオ					○	
192		クマサカフグ					○	
193		クロウシノシタ					○	
194		クロカサゴ					○	
195		クロガシラガレイ	○	○			○	
196		クロガレイ			○		○	
197		クロコバン					○	
198		クロサバフグ					○	
199		クロソイ		○	○		○	
200		クロソコイワシ					○	

[1] 『北海道水産現勢』(北海道水産林務部, 2010~2014 年)

[2] 『苫小牧東部地域に係る環境影響評価書』(北海道, 1996 年)

[3] 『苫東厚真発電所第 4 号機設置計画に係る環境影響評価書』(北海道電力株式会社, 1998 年)

[4] 『海棲哺乳類情報データベース』(国立科学博物館ウェブサイト: <http://svrsh1.kahaku.go.jp/marmam/>, 2014/10/17 アクセス)

[5] 『漁業生物図鑑新北のさかなたち』(北海道新聞社, 2004 年)

[6] 『川づくりのための魚類ガイド』(一般財団法人北海道建設技術センター, 2004 年)

第 3.2-4(6) 表 苫小牧市および厚真町地先海域に生息する魚類等

番号	区分	資料名および対象地域 種名	① ^[1] 北海道水産現勢	② ^[2] 苫小牧東部地域に係る 環境影響評価書 (確定)	③ ^[3] 苫東厚真発電所 4 号機 設置計画に係る 環境影響評価書	④ ^[4] 海棲哺乳類情報 データベース	⑤ ^[5] 漁業生物図鑑 新北海のさかなたち	⑥ ^[6] 川づくりのための 魚類ガイド
			苫小牧市, 厚真町				北海道 太平洋側	道央 太平洋側
201	魚類	クロソコギス					○	
202		クロダイ					○	
203		クロテングギンザメ					○	
204		クロホシマユガジ					○	
205		クロマグロ	○				○	
206		クロムツ					○	
207		クロメダイ					○	
208		クロメヌケ					○	
209		クロモンガラ					○	
210		ケムシカジカ		○	○		○	
211		ケムシギンボ					○	
212		ゲンコ					○	
213		コウライガジ					○	
214		コウライマナガツオ					○	
215		コオリカジカ					○	
216		コガネガレイ		○			○	
217		コクチクサウオ					○	
218		ゴコウハダカ					○	
219		コノホシギンザメ					○	
220		ゴテンアナゴ					○	
221		コトヒキ					○	
222		コノシロ					○	
223		コバンザメ					○	
224		コヒレハダカ					○	
225		コブオキカジカ					○	
226		コブシカジカ					○	
227		コブダイ					○	
228		コマイ	○	○	○		○	
229		ゴマギンボ					○	
230		ゴマサバ					○	
231		ゴマソイ					○	
232		ゴマフグ					○	
233		コモンカスベ			○		○	
234		コモンフグ					○	
235		コンゴウアナゴ					○	
236		コンニャクイワシ					○	
237		コンペイトウ					○	
238		サイトクビレ					○	
239		ザカトビウオ					○	
240		サギフエ					○	

[1] 『北海道水産現勢』(北海道水産林務部, 2010~2014 年)

[2] 『苫小牧東部地域に係る環境影響評価書』(北海道, 1996 年)

[3] 『苫東厚真発電所第 4 号機設置計画に係る環境影響評価書』(北海道電力株式会社, 1998 年)

[4] 『海棲哺乳類情報データベース』(国立科学博物館ウェブサイト: <http://svrsh1.kahaku.go.jp/marmam/>, 2014/10/17 アクセス)

[5] 『漁業生物図鑑新北海のさかなたち』(北海道新聞社, 2004 年)

[6] 『川づくりのための魚類ガイド』(一般財団法人北海道建設技術センター, 2004 年)